

工房だより

NO. 1

発行：京都手をつなぐ育成会 事業運営委員会
発行日：平成 30 年 2 月 19 日(月)



寒い日が続きますね。小さいときは冬になると雪降れ～雪降れ～と思ながらよく窓の外を眺めていました。今は雪が降ると外も歩きづらいし車乗るのも嫌になるし、頼むから雪なんて積もるんじゃないぞ～と天気予報を見ている。暦の上では春になりましたが肌で感じるのはまだ先そうですね。暑いより寒いほうが好きですが、この寒さにもそろそろ嫌気がさしてきているので少し早めに暖かい春来てくれませんか。自分の切実な願いです。(十倉)

今回号の pickup 記事

■Pick up①

西大路工房で作業されている箱折りや、カラフルでかわいらしい花ふきんやプチふきんなどの自主製品を紹介します！

■Pick up②

伏見工房の雑貨店「たんぼぼ」で販売している自主製品を紹介☆

西大路工房

「地域の中で働きながら豊かな生活を」

西大路工房の開設は昭和 56 年 11 月 4 日。養護学校を卒業後の居場所を確立するために、ご家族の運動と地域の皆様のご理解の下、山科共同作業所(現山科工房)に続き、上京共同作業所として新町一条の地に産声をあげました。昭和 59 年 11 月 30 日現在の地に移転、西大路共同作業所(現西大路工房)となりました。当初利用者 7 名、職員 2 名から始まった事業所も現在では利用者 36 名、職員 8 名の体制となりました。

また、平成 16 年 3 月 26 日より、少人数で、落ち着いた環境でそれぞれの利用者にあった活動を提供するべく、西大路工房分室「雫」を右京区に開設しました。

箱折り



タオル作業



主な作業としては、お土産物のお菓子を入れる箱折りや、タオル入りの作業、チラシ折りの作業など多彩な下請け作業を行っています。

特に下請け作業を受ける場合に心掛けているのは、どの利用者も必ずかかわれ、活躍できる作業を受注するように心がけています。特に手芸用品の袋詰め作業は、西大路本所、分室「雫」の利用者問わず作業をしています。



自主製品では、さしこふきん、アクリルタワシの作業などは好評で注文も多いですが、染ふきん等もカラフルで用途も多岐にわたり使って頂けるものを製作しています。最近、新製品として花ふきん、プチふきんも制作しており、縫製だけでなく利用者が活動できる自主製品も開発しています。



現在西大路工房も年齢層が高くなってきていますが、年齢には関係なく働きたいと思うことは、人間の人生にとってうらおいであり、生きがいだと思います。当初の卒業後の居場所という思いから、成人期から壮年期へ移る中で生きがいを持って生活できる居場所へと変わってきていると思います。様々な年齢層の利用者が通所する中で、それぞれのニーズにこたえていけるような事業所にしたいと思います。

伏見工房 たんぽぽショップ ～工房の自作品販売～



2017年の3月より焼きたてパン屋ボンジュールは雑貨店『たんぽぽ』に名前を変えて伏見工房で制作している自作品を販売しています。



雛人形、ストラップふくろう、ちりめん友禅スマホケース、ビーズの指輪、香人形、京名所さしこ布巾など様々な自作品を毎日作ってます。



各工房の活動状況

山科工房

主な作業：お線香の作業（子箱作り、計量、巻紙で巻く、ふた閉め）
コーヒー、カフェ、缶つぶし
年始は、一燈園さんの月刊誌の本入れやシール貼り、封閉めなどのお仕事が多いです。

西大路工房

主な作業：箱、タオル、刺し子
1月4日（木）に、利用者と保護者の方々と、ルビノホテルで新年会を行いました。

伏見工房

主な作業：箱、自主製品作成と販売、セット作業
秋のバザーで売れた、刺し子のカバンや小物類を作りだしています。

自立センター竹屋町工房

主な作業：清掃作業が中心
全国障害者スポーツ大会 50m背泳ぎで田中一真さんが3位に入賞しました。

知的障害者支援事業所“七”

主な作業：保冷剤、箱、洗濯、清掃、アルミ缶、シール貼り、シール入れ
不定期ですが、シール入れやシール貼りの作業もいただいています。

山科工房 40周年記念

～40周年記念・もくもくファーム日帰り旅行について～

平成29年10月14日

山科工房は、昨年10月15日で創立40周年を迎えました。これもひとえに皆様方のお力添えのおかげと感謝しています。

今回は、あえて大きなセレモニーをせずに、工房の利用者さん、ご家族、職員で三重県の「伊賀の里もくもく手づくりファーム」にバスで日帰り旅行に行きました。家族会からのお菓子を食べながらバスに乗り、現地では子豚ショー、バーベキュー、ソーセージ作り体験などみんなで楽しみました。



最後に工房から利用者さんのみなさんに手作りのアルバムを贈らせていただきました。ささやかな旅行でしたが、思い出に残る楽しい旅行になったと思います。（記事：谷口）

各事業所の苦情、相談、質問などの受付について

各事業所には苦情受付担当者が配置され、皆様からの御相談や御質問を受け付けさせていただきます。又、直接事業所には言い難い場合等は各事業所の第三者委員や保健福祉センター等へお申し出頂くこともできます。連絡先などは各事業所の重要事項説明書に記載されておりますので御活用下さい。又、そこまではしたくないが、事業所にもやはり直接は言い難いといった場合、相談支援事業所にご連絡頂くか、本部事務所内、事業所質問箱へ郵送にて内容をお送り頂ければ、担当者に届きます。是非お気軽に御利用下さい。

連絡先

- 相談支援事業所 京都市育成会
☎ 090-6738-9133
- 育成会 事業所運営委員会 事業所質問箱（匿名不可）
〒602-8143 上京区堀川丸太町下ル 京都社会福祉会館1階
京都市育成会 事業所質問箱 宛

コラム：気になるを考える

ふと“気になったこと”をテーマにして、みなさんも一緒に少し考えてみませんか？というコーナーです。ひとつの意見としてこの記事を読んでいただいて、みなさんと一緒に考えてみてください。今回のテーマは

くり返すこと

です。

なぜ、くり返すことが大切なのか

わたしたちが工房で行っているのは、ほとんどが簡単な仕事です。ほぼ一日を清掃や箱の組み立てなどに費やし、毎日それをくり返します。変化の少ない平坦な日々の連続ですが、「誰かがやらなければいけないこと」であると、作業を通して実感もしています。毎日毎日、変わりばえのしない、けれども誰かがやらなければならない仕事をくり返す。その理由が、「世界を守るため」だと言ったら、大げさだと思われるでしょうか。

掃除するヘラクレス

ギリシャ神話最大の勇者と言われるヘラクレスは、凶暴な獅子や水蛇などを退治した「十二の偉業」と呼ばれる活躍でその名を知られています。その偉業の中に、「アウゲイアスの家畜小屋の掃除」という非常に地味なエピソードがあります。エリス国のアウゲイアス王は三千頭の牛を持ち、その牛小屋は三十年間掃除されたことがありませんでした。ヘラクレスはアウゲイアス王に「一日で掃除したら、牛の十分の一をもらう」という条件を持ちかけ、二つの川の流れを小屋の中に引き込むことで汚物をいっぺんに洗い流し、この難題を解決して見せました。哲学者のハンナ・アーレントはこの大掃除を例に取り、肉体を維持するだけでなく、世界を維持するためにも、厄介で単調な労働は繰り返す必要があると述べています。地味な仕事のくり返しによって身の回りを美しく安全に保とうとする行為は、「世界を守る」という点において、凶暴な野獣を退治することと同じぐらい偉大な仕事だということではないでしょうか。

くり返すことによって、無限になる

人間の命には限りがあります。生まれたからにはいつかは死ぬ。有限であることが人間なのだとも言えるでしょう。しかし、複数の人間によって繰り返されて世代を超えて継がれてゆく活動は、人間が死んだ後も永遠に存続することが可能になります。わたしたちが向かい合っているこの世界は、有限であるはずの人間が個を超えて無限であろうとする意志によって作られたものです。それはリレー競争のバトンのように過去に生きていた人々から受け取り、やがて未来に生きる人々に向かって手渡すことで永遠に続いていくものです。変わりばえのしない毎日をくり返すことによって、日々、過去から未来へと世界を受け渡していく。それは現在を生きるわたしたちにしかできない偉大な仕事ではないでしょうか。

みなさんは、どんな風に思われますか？

(記事：金原)

連絡先一覧



本部 〒602-8143 上京区堀川丸太町 下ル 京都社会福祉会館1階 TEL：075-812-1700 FAX：075-812-1701	山科工房 〒607-8024 山科区四ノ宮熊ヶ谷 TEL：075-593-7070 FAX：075-593-1339
西大路工房 〒604-8461 中京区西ノ京中保 町61 TEL：075-463-5299 FAX：075-465-6820	伏見工房 〒612-8042 伏見区柿木浜町 456 TEL：075-621-9225 FAX：075-612-6279
自立センター竹屋町工房 〒602-8143 上京区堀川丸太町 下ル 京都福祉会館内 TEL：075-812-1702 FAX：075-812-1701	知的障害者支援事業所“七” 〒601-8465 南区唐橋花園町 9-6 TEL：075-692-3857 FAX：075-692-3856
生活支援事業 TEL：075-692-3857 FAX：075-692-3856	相談支援事業所京都育成会 TEL：075-802-6260 FAX：075-812-1701

次号は5月中旬に発行予定です

編集：金原 康浩
十倉 承統
谷口 二郎

メール：ikuseikai.koho@gmail.com